



ヤナギバルイラソウ

キツネノマゴ科ルイラソウ属

学名

Ruellia brittoniana Leonard

開花時期

4月～10月

撮影場所

長雲峠

メキシコ原産の帰化植物であり、図鑑にはまだ載っていない。

最初は園芸植物として持ち込まれたが、繁殖力が強く日本では九州、沖縄、奄美大島などで野生化している。

午前中に開花し、昼過ぎには散ってしまう一日花。

葉は柳の葉に似て細長く、緑色の葉には紫色の葉脈が走る。

さやがはじけて種を遠くに飛ばし、種が水に触れると膨張し、その粘着力を増す、この仕組みが繁殖力につながり、急速に増えて行った。



オナガエビネ

ラン科エビネ属

学名

Calanthe masuca

開花時期

7月～9月

撮影場所

長雲峠 奄美自然観察の森

常緑広葉樹林内の林床に生える地生ラン。

環境省のレッドリスト(2007)では、「絶滅の危険が増大している種」である絶滅危惧II類(VU)に登録されている。

分布域は奄美大島、徳之島、鹿児島、沖縄など。

「海老根」は茎や根の様子をエビに見立てたものである。

奄美大島中南部の林床にはかつて本種の自生地が数ヶ所あったが、園芸採取などによりほぼ消失した。



ミヤコジマソウ

キツネノマゴ科イセハナビ属

学名

Hemigraphis reptans

開花時期

5月～9月

撮影場所

長雲峠 奄美自然観察の森

別名ヒロハサギゴケ。

環境省のレッドリスト(2007)では、「ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種」である絶滅危惧IA類(CR)に登録されている。

宮古島は分布域の北限であり、国内で唯一の産地。

海外では台湾から太平洋諸島およびニューギニア島に分布し、世界的には希少な植物ではないが、日本国内では分布が限られている上に、生息地が開発で減少している。

奄美大島本来の植物ではなく、長雲峠の奄美自然観察の森にあるミヤコジマソウは持ち込まれたものである。



ウスベニニガナ

キク科ウスベニニガナ属

学名

Emilia sonchifolia (L.) DC.

開花時期

8月～10月

撮影場所

中央林道

紀伊半島以南から琉球列島の暖かい地方に分布し、日当たりのよい道端、平地、海浜、荒れ地などでよく見られる。

無霜地ではほとんど1年中多少は開花している。

ニガナという名前がついているが、身近に見られるニガナの仲間ではなく、ニガナのように葉を干切っても乳液は出ない。

花後はタンポポのように種子のついた綿毛を飛ばす。



シュウカイドウ

シュウカイドウ科ベゴニア属

学名

Begonia evansiana

開花時期

8月～10月

撮影場所

中央林道

中国原産で、日本には江戸時代初期に園芸用として持ち込まれる。

日本でも戸外で越冬できるため、半野生化し、湿度がある程度保たれている場所に生育する。

シュウカイドウ科シュウカイドウ属(ベゴニア属、学名 *Begonia*)に属する植物の総称をベゴニアというが、本種は古くから日本に自生しているためベゴニアとは呼ばれない。

葉にシュウ酸を含む毒草であるが、毒はあまり強くはない。

雌雄異花で、雄花をつける枝は上に伸びているが、雌花をつける枝は、垂れ下がっている。



ハシカンボク

ノボタン科ブレディア属

学名

Bredia hirsuta

開花時期

9月～12月

撮影場所

中央林道

屋久島以南に分布している。

高さが30センチから100センチの、草本ではなく低木。

八重山諸島のヤエヤマノボタンに似る。

有毛であること、また葉の葉脈の数がヤエヤマノボタンより多く、丸いことで区別できる。

沖縄で古くからこの樹木をハシカン(波志干)と呼び、それが名前となるが波志干の意味は不明である。



シマツユクサ

ツユクサ科ツユクサ属

学名

Commelina diffusa Burm. fil.

開花時期

7月～9月

撮影場所

フォレストポリス

日本の九州以南や琉球列島に分布する。

通常のツユクサに比べ、花の色が淡い青である。

また、ツユクサは3枚の花弁のうち上側の2枚が大型で鮮やかな青色、下側の1枚は小型で無色透明に近いが、シマツユクサは3枚の花弁がほぼ同じ大きさで、淡青色。

苞(つぼみを包んでいた葉のこと)の先は細長く尖る。

畑や溝地などやや湿ったところに生える一年生草本である。